

アフガン帰還難民住宅再建プロジェクト中間報告

— 日本国連 HCR 協会 —

2002年12月

アフガニスタン概況 アフガニスタンでは1979年にソビエトの侵攻が始まり、1989年にソビエト軍が撤退した後には内戦が勃発しました。数年にわたる干ばつも重なり、多くの人々が難民となりました。ピーク時にはイランやパキスタンなどの近隣諸国に約620万人が避難しました。国外に逃れた人々の他に、国内に留まりながら他地域に避難した国内避難民も多く発生しました。比較的平穏な状態に戻った2002年春以降、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とアフガン暫定機構の帰還事業により、すでに約180万人が帰郷しています。しかし長年の紛争の結果、多くの家屋が破壊され、故郷に帰っても住む家がない状況が続いています。帰還難民の多くは仮設テントやビニールシートをかけた倒壊家屋、廃墟となった施設での生活を余儀なくされています。四季を通じて自然環境が非常に厳しいアフガニスタンですが、今年の冬は例年よりも寒く、住宅再建のために緊急援助を必要としています。



プロジェクト概要 この住宅再建プロジェクトの援助対象者は地元当局が選定を行ないます。梁や窓枠など基本的な建材が UNHCR から支給され、建設作業は帰還難民が地元コミュニティと協力して行ないます。資材は外国から調達されるものもあります。たとえば木材は南アフリカ日干しレンガを使って帰還難民が自ら建設するため、用意した窓ガラスのサイズが窓枠に合わないこともあります。あるいは水不足により屋根を固める泥が塗れないこともあります。UNHCR では2002年度中に計4万戸の住宅再建を目標としていますが、様々なトラブルに対応しながらも12月中旬の時点で約30,000戸が完成しつつあります。

UNHCR 日本・韓国地域事務所と日本国連 HCR 協会は4,000戸分を日本での募金目標とし、地域事務所が主に法人を対象に、そして HCR 協会が一般個人を対象にご寄付を呼びかけています。1戸あたりの建設費用は様々な諸費用を含め、約10万円（8人家族用）が必要です。具体的なアイデアを抱いていただくために、10万円（1戸分のサポート）、5万円（半戸分のサポート）、1万円（部分的なサポート）のご寄付をご提案しましたが、もちろんその他の任意の金額でも多くのご寄付をいただきました。日本国連 HCR 協会には609人から約1,340万円の寄付金が寄せられました（2002年12月14日現在）。経済的に厳しい状況が続く日本ではありますが、66名もの方々が10万円以上のご寄付を下さいました。

寄付金額と寄付者数	
10万円以上～	66人
5万円以上～10万円未満	39人
1万円以上～5万円未満	309人
～1万円未満	195人
総額 13,366,370円	計 609人

(2002年12月14日現在)

帰還難民紹介 このプロジェクトで住宅再建を進めている帰還難民の家族を紹介します。今回のプロジェクトに協力している特定非営利活動



エマムディンさん家族

法人 JEN（ジェン）が主に活動するチャリカからの報告です。チャリカは首都カブールから北へ約50キロ、車で約1時間15分のところにあります。チャリカにあるカラザイ村では再建を進めている24家族のうち、20家族が作業を完了しています。

エマムディンさんは奥さんと5人の子供、そして彼の母親の8人家族です。彼らはパキスタンの難民キャンプで4年を過ごした後、しばらくカブールに滞在しました。その後、この村に戻ったエマムディンさんは「私の故郷はこの村です。やはり故郷に帰ると落ち着きますね。住む家があるということは幸せです」と話していました。彼は小麦畑とブドウ畑を持っていますが、水不足のため小麦を植えることができず、ブドウも実をつけませんでした。3年ほど続く干ばつのため井戸が干し上がっているそうです。わずかに残る井戸の持ち主や、丘の上の隣村に水を分けてもらい、生活している状況が続いています。

アサドゥラさんは奥さんと6人の子供の8人家族です。彼は国内避難民としてカブールのキャンプで4年を過ごした後、カラザイ村に戻ってきました。4年間のキャンプ生活を「食べ物のことばかり考えていた。退屈な日々だった」と振り返っています。彼の住宅再建は最終段階に入



アサドゥラさん家族と権名さん
(後列左から2人目)

り、内装と窓ガラスをはめると完成だそうです（この報告書が届く頃には完成し、家族で生活しているかもしれません）。アサドゥラさんは「自分の家を立て直すことができ、とても嬉しいです。支援してくださった日本の皆さんによりしくお伝えください」と現地で働く JEN のプログラムオフィサー権名規之さんに言っていました。

プロジェクト延長 日本中の皆さまから多くのご寄付をいただき、アフガン帰還難民の住宅再建が進んでいますが、まだまだ目標には到達していません。今年のアフガニスタンの冬は例年以上に寒く、カンダハールの南ではマイナス15度を記録しました。パキスタンとの国境近くのキャンプでは12月に入って寒さと栄養不足からくる抵抗力低下により、少なくとも40人の子供が亡くなりました。UNHCR は3,500枚の敷布と28,500枚の毛布を緊急輸送しましたが、彼らが家族で安心して住める家を建てるのが急務となっています。

UNHCR では2003年度に150万人のアフガン帰還難民を支援するために1億9,500万ドルが必要と考えています。イランから60万人、パキスタンから50万人、その他の周辺諸国から10万人の人々がアフガニスタンに帰還し、国内で避難している30万人の人々が故郷に戻ると予測しています。

日本国連 HCR 協会では「アフガン帰還難民住宅再建プロジェクト」のための募金活動を2003年3月末まで延長し、引き続き皆さまの力強いご支援をお願いしています。ご関心をお持ちのお知り合い等に、このプロジェクトをご紹介いただければ幸いです。

(写真提供：JEN/Shiina)